キャリア教育の推進

令和４年２月　北海道教育庁学校教育局高校教育課

～キャリア教育のPDCAサイクル確立を～

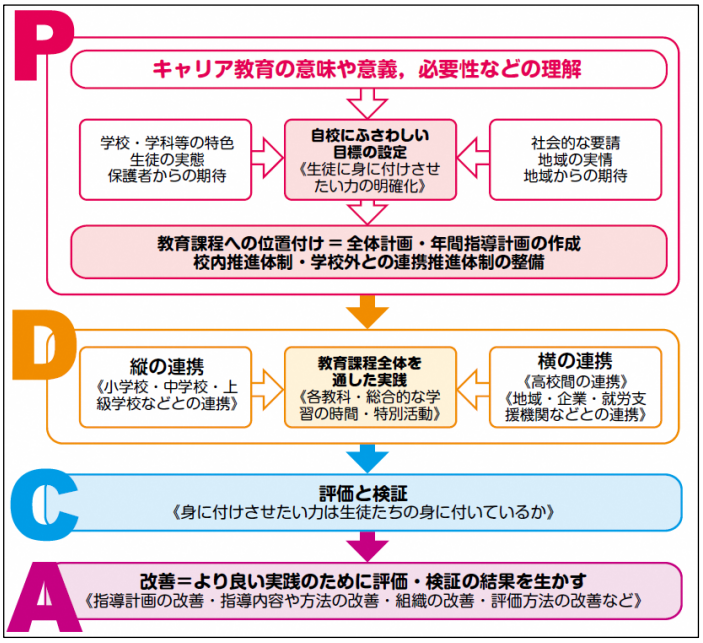
「キャリア教育」は、平成23年１月31日の中教審答申で、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されています。

また、令和４年(2022年)４月から年次進行で実施される高等学校学習指導要領では、キャリア教育の充実について、次のとおり示されていますので、その実現に向けて、PDCAサイクルを確立することが重要です。

高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)

第5款　生徒の発達の支援（3）

生徒が，学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら，社会的･職業的自立に向けて必要な基盤となる資質･能力を身に付けていくことができるよう，特別活動を要としつつ各教科･科目等の特質に応じて，キャリア教育の充実を図ること。

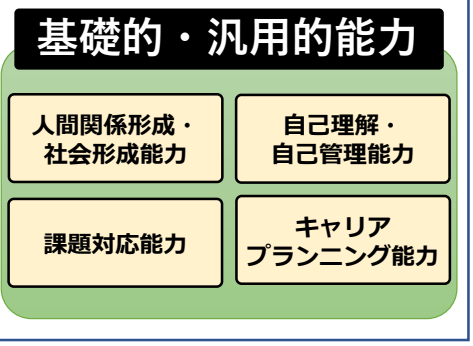


出典：文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」(平成23年11月)

「基礎的・汎用的能力」について

『高等学校キャリア教育の手引き（平成23年11月）』において、生徒の卒業時点で「できるようにしたい」という目標を、基礎的・汎用的能力として示されました。

新しい高等学校学習指導要領において、基礎的・汎用的能力の４領域に変わりはありませんが、育成すべき資質・能力は、生徒や地域の実態、学科などによって異なるため、各学校が作成するキャリア教育の全体計画の「キャリア教育の全体目標」や「学年目標」において、４つの基礎的・汎用的能力が、どのような能力を表すかを、具体化させることが重要です。



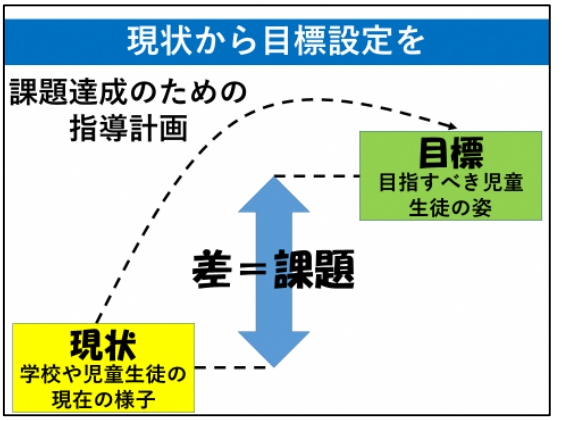
P　1　キャリア教育における目標について

キャリア教育の目標は、キャリア教育の全体計画の中で、「キャリア教育の全体目標」や「学年目標」として作成します。今年度、各学校がスクール・ミッションの再定義で示した、目指す生徒像とキャリア教育の基礎的・汎用的能力を関連付けて、キャリア教育の目標を作成します。

1　全体目標について

キャリア教育の全体目標の作成に当たっては、生徒の現状を把握することが重要です。

授業評価や学校評価などを基に、先生方全員で話合いを行うなど、生徒の強みや弱みについて共通認識をもった上で、生徒の現状と目指す生徒像との差を課題として捉え、全体目標を作成します。



<見直しのポイント>
- 「卒業時に目指す生徒像」がスクール・ミッションを踏まえているか
- 全体目標が、生徒の現状を把握した上での設定となっているか
- 基礎的・汎用的能力と関連付けて作成されているか
- 全体目標が、評価しやすい表現となっているか

卒業時に 目指す生徒像(例)	・変化する社会に対応するため、幅広い知識と教養を身に付け、他者と協働して課題解決を図ろうとする生徒 ・グローバルな視点をもち、実社会で活躍できる生徒

スクール・ミッションを踏まえているか

各学校で具体化

キャリア教育の 全体目標(例)	【人間関係形成・社会形成能力】他者を尊重し、社会とのつながりを考えることができる 【自己理解・自己管理能力】何事にも、粘り強く取り組むことができる 【課題対応能力】地域や社会に関心をもち、課題解決に主体的に取り組むことができる 【キャリアプランニング能力】将来を見据え、計画的に物事に取り組むことができる

キャリア教育で育成を目指す基礎的・汎用的能力の４領域を意識して作成しているか

【留意事項】
・生徒の実態を踏まえた**具体的な**目標とします。
・生徒の実態と目指す生徒像の差を**課題**と捉え、目標にします。
・一つ一つの目標は、評価を適切に行うために、２つの事柄が入らないように作成します。

2　学年目標について

学年目標は、全体目標を重点化して作成します。３年間の中で４つの領域が網羅されるよう項目を絞り、適切な評価が実施できるよう、具体的に作成します。

<見直しのポイント>
・項目を絞って、作成しているか。
・「○○ができる」、「○○のときに○○ができる」のように具体的な表現となっているか。

重点化

キャリア教育　学年目標（重点目標）(例)		
１年	２年	３年
・職業や勤労に対する理解を深め、卒業後の進路について、考えることができる。 ・仲間と協力して粘り強く取り組むことができる。	・他人の意見を尊重しながら、自分の考えを述べることができる。 ・インターンシップで、職業についての理解を深めることができる。	・探究活動を通して、地域課題の解決に取り組むことができる。 ・計画的に情報を収集し、主体的に進路を決定することができる。

【留意事項】
・基礎的・汎用的能力の４領域が、３年間の中で網羅されるように作成します。
・目標は、評価をする際に、主語を付けて、語尾を付け替えるとそのまま質問になるよう、具体的に作成します（あなたは、～できましたか）。

キャリア教育の全体計画は、毎年、評価と検証(C)を実施し、必要に応じて改善(A)するなど、次年度の計画に生かします。

P　2　年間指導計画の作成について

高等学校学習指導要領には、ホームルーム活動がキャリア教育の要としての役割を果たすことになると示されています。年間指導計画を作成する際に、キャリア発達を促す取組や自分の学習などを見通したり、振り返る機会を設け、継続的な取組となるよう留意することが大切です。３年間の年間指導計画を作成することで、キャリア教育の取組について、見通しが立てられるようになります。

高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)解説【総則編】

キャリア教育を効果的に展開していくためには，特別活動のホームルーム活動を要としながら，総合的な探究の時間や学校行事，公民科に新設された科目「公共」をはじめとする各教科・科目における学習，個別指導としての教育相談等の機会を生かしつつ，学校の教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要になる。

また，自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しをもったり，振り返ったりする機会を設けるなど主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることがキャリア教育の視点からも求められる。

<ホームルーム活動の計画例（２学期制・１年生の場合）>

※　35時間の中に「キャリア教育」を意識して年間指導計画を作成します（例では、キャリア教育に関係する項目のみを掲載しています）

月	前期	月	後期
４月	学年目標、前期目標の作成 役員の選出	10月	後期目標の作成 自己理解、職業理解
５月	中間考査の目標設定 自己理解、職業理解	11月	後期中間考査の目標設定 担任との面談、職業理解
６月	中間考査の振り返り	12月	校内企業説明会
７月	卒業生講話	１月	学年末考査の目標設定
８月	前期末考査の目標設定	２月	社会人講話
９月	前期の振り返り	３月	１年の振り返り

見通しをもったり、振り返ったりする機会を設けます。

<キャリア・パスポートについて>

「キャリア・パスポート」は、令和２年４月から、全ての小学校、中学校、高等学校で実施することとなっており、校種間で引き継いで学びの振り返りを行ったり、高校生活の見通しに生かすよう取り組むことができます。

なお、新たに作成するのではなく、これまで学校で活用していた「進路のしおり」など高校での３年間の取組をまとめた資料を「キャリア・パスポート」として、活用することができます。

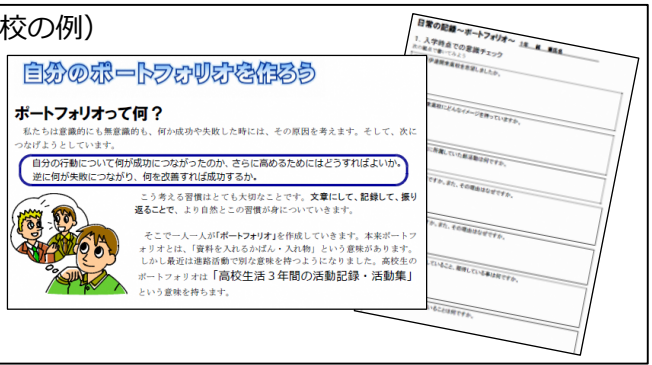
【参考通知】
・「キャリア・パスポート」の引継ぎについて
（教高第2271号・令和２年(2020年)12月11日）
・「キャリア・パスポート」の学年・校種間の引継ぎについて
（教高第2914号・令和３年(2021年)２月24日）

キャリア・パスポートの取組例（北海道伊達開来高等学校の例）

北海道伊達開来高等学校では、キャリア・パスポートの代替として、「自分のポートフォリオを作ろう」を作成しています。

「自分のポートフォリオを作ろう」は、生徒の３年間の成長が記録できるように、入学時や考査前後、学校行事の前後などでの目標設定や、取組を振り返るシートを取りまとめた冊子となっています。LHRなどの時間を通して記録し、蓄積することで、自己理解を深めたり、進路を見通したりする能力を身に付けます。

また、本冊子は、これまで、担任がそれぞれ実施していた取組を、学校全体として「キャリア教育を推進する」役割を担っています。



D　３　核となる体験活動の設定について

キャリア教育の全体計画で作成した「学年目標」を達成するために、各学年には「核となる体験活動」を設定します。「核となる体験活動」には、学校祭での学級活動や、見学旅行での班別活動などの集団的行事、企業でのインターンシップを位置付けることが考えられます。

新たに体験活動を設定することもできますが、これまで学校が実施している取組の中から、目的・ねらいを明確化し、「核となる体験活動」として位置付けることも効果的です。

「核となる体験活動」を実施する際には、実施要項を作成するなど、事前学習や事後学習などの充実を図ることや、その後の学校生活や進路活動につながるよう、キャリア・パスポートなどを活用します。

＜設定のポイント＞
・各学年で１～２つ程度、位置付ける。
・学年目標を達成するために必要な活動を核とする。
・事前及び事後指導の充実が重要である。

○　学校祭での「販売活動」を核とする例（１年「ＬＨＲ」、「学校行事」での実践例）

＜事前学習＞	＜核となる体験活動＞	＜事後学習＞
（実施学年・教科・活動内容等） １年「LHR」 ・サービス業の理解	＜活動の名称＞ ・模擬店（「学校行事」で実施） ＜目的・ねらい等＞ ・職業観の醸成 ・クラスの団結力の醸成 ＜具体的内容＞ ・原価計算や接客などの企業活動体験	（実施学年・教科・活動内容等） １年「LHR」 ・模擬店での活動振り返り ・今後の学校生活に生かすこと （キャリア・パスポートの活用） 【留意事項】 ・どのような資質が身に付いたかを、振り返る活動を行います。
（実施学年・教科・活動内容等） １年「LHR」 ・マーケティングの重要性と流れ ・取組を通して身に付けたいこと		

○「インターンシップ」を核とする例（２年「総合的な探究の時間」での実施例）

＜事前学習＞	＜核となる体験活動＞	＜事後学習＞
（実施学年・教科・活動内容等） ２年「総合的な探究の時間」 ・職業理解、ライフプランの作成	＜活動の名称＞ ・インターンシップ （「総合的な探究の時間」で実施） ＜目的・ねらい等＞ ・働くことの意義の理解 ・興味がある分野の仕事の理解 ・異世代とのコミュニケーション能力の向上 ＜具体的内容＞ ・就業体験	（実施学年・教科・活動内容等） ２年「総合的な探究の時間」 ・インターンシップの振り返り ・クラス内報告会
（実施学年・教科・活動内容等） ２年「総合的な探究の時間」 ・インターンシップの意義 ・インターンシップを通して身に付けたいこと 【留意事項】 ・何のために活動を行うのか、どのような資質を身に付けたいかを明確にします。		（実施学年・教科・活動内容等） ２年「総合的な探究の時間」 ・成長したことや課題の整理と進 ・路活動に向けて （キャリア・パスポートの活用） 【留意事項】 ・学校生活や進路活動につながる働きかけを行います。

「総合的な探究の時間」でインターンシップを行う際は、内容の取扱いについて、次の点に配慮することが必要であると示されています。

高等学校学習指導要領(平成30年３月告示)
『総合的な探究の学習』第3　指導計画の作成と取扱い
(７)体験活動については，第１の目標並びに第２の各学校において定める目標及び内容を踏まえ，探究の過程に適切に位置付けること。
(10)職業や自己の進路に関する学習を行う際には，探究に取り組むことを通して，自己を理解し，将来の在り方生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。

道教委では、「北海道教育推進計画」において、令和４年度末までに「在学中にインターンシップなどの体験的な学習活動を経験した生徒の割合が100%」となるよう、目標を設定しています。

就職を見据えた企業でのインターンシップのほかに、進学希望者が多い普通科等においては、大学、裁判所、研究施設等の専門機関におけるアカデミック・インターンシップを実施することができますので、各学校で工夫した取組をお願いします。

キャリア教育に関するQ&A

Q 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)では、キャリア教育の教科・科目での取扱いについてどのように示されていますか。

A 教科・科目での取扱いについて、高等学校学習指導要領においては、科目「公共」の「３　内容の取扱い」に、取扱いに当たっての配慮事項として、「教科目標の実現を見通した上で、キャリア教育の充実の観点から、特別活動などと連携し、自立した主体として社会に参画する力を育む中核的機能を担うことが求められる」と示されています。

また、「特別活動を要としつつ、各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」となっていることから、学校行事やホームルーム活動を中心にキャリア教育の全体計画を職員会議や研修で示すことなどにより、教科担当の先生が、自らの担当科目内で主体的に「どのような関わりができるか」を考え、生徒に働きかけることができるよう、学校全体で推進していく校内体制の構築が重要です。

Q キャリア・パスポートは、新たに作成しなければならないのですか。

A いいえ、これまで使用していた「進路のしおり」や、年度初めや年度終わりに担任が個別に取り組んでいた「今年の目標」、「１年間の振り返り」などの資料を活用することができ、それらをキャリア・パスポートに代替することも可能です。

この場合、担任の先生が個別に実施していたものを、学校の取組として位置付けるなど、組織的に実施することが必要です。

Q 中学校から引き継いだキャリア・パスポートは、どのように活用するといいですか。

A 生徒との面談で、教師がキャリア・パスポートに記載された内容を基に対話的に関わったり、ＬＨＲの時間に、生徒自身で小・中学校での成長の振り返りを行うことで、児童生徒の成長を促し、系統的な指導を行うことができます。

バックナンバーの紹介

毎年、北海道教育委員会より発行している「キャリア教育の推進」リーフレットについて、過去５年のバックナンバーを紹介します。学校におけるキャリア教育の推進に当たって、参考にしてください。道教委ウェブページからダウンロードできます。

【発行年度と主な内容】

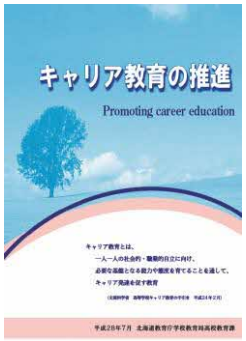
- ○令和２年度　アカデミック・インターンシップ、就職活動を見据えたインターンシップの実践例
- ○令和元年度　キャリア・パスポート特集
- ○平成30年度　新しい高等学校学習指導要領でのキャリア教育
- ○平成29年度　卒業生が思うキャリア教育～卒業後に振り返って～
- ○平成28年度　インターンシップにおける事前・事後学習の取組と成果

令和２年度版

令和元年度版

平成30年度版

平成29年度版



平成28年度版

リーフレットに関する問合せ先

北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係
〒060－8544　札幌市中央区北３条西７丁目　TEL 011（231）4111（内線35-729）
https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/career.htm